



楽 こどもの日フェスティバル 楽しい体験に笑顔がたくさん

5月6日、道立厚岸少年自然の家(ネイパル厚岸)で、『こどもの日フェスティバル』が開催されました。
晴天に恵まれ、乗馬や野焼きパン体験などにはたくさんの子どもたちが集まっていました。屋内では七宝焼きや木工体験などが行われ、ステージでは、吹奏楽演奏やフラダンスなどが披露され、会場からは大きな拍手が送られていました。
子どもたちは笑顔で元気いっぱい遊び回り、親子で楽しいこどもの日を過ごしました。

立 きのこの森づくり 派なシイタケができるかな？

5月23日、森林センターで『きのこの森づくり』が行われ、46人が参加しました。
参加者は、用意されたミズナラの木にドリルで穴をあけ、その穴にシイタケの菌が詰まった菌駒を、ひとつひとつ木づちなどで打ち込み、約1時間の作業で用意された150本の原木に菌駒の植菌作業を行いました。1年から1年半後に、立派なシイタケが収穫できます。帰りには、参加者全員に自宅でしいたけ栽培ができる菌床が手渡されました。



簡 子育て講座『幼児の食事』 簡単でおいしい食事を作りました

5月15日、保健福祉総合センターで子育て講座『幼児の食事』が開催されました。講座には14人が参加し、簡単に作ることができ、幼児が食べやすい食事を作りました。
子どもが苦手な野菜を克服する方法や、おやつを食べさせるときに気をつけることなどの説明もあり、参加者はこれからの食事づくりの参考としていました。
完成した料理は子どもたちと一緒に試食。子どもたちからは「おいしい！」の言葉とともに笑顔がこぼれていました。



看 看護の日イベント 看護の心を分かち合いましょう

5月15日、町立厚岸病院で『看護の日』イベントが開催されました。看護の日とは21世紀の高齢社会を支えていくため、1990年に旧厚生省により、フローレンス・ナイチンゲールの誕生日である5月12日に制定されました。
町立厚岸病院では、『看護』をより知ってもらおうと毎年開催していて、血圧測定や介護食品の試食、お手製の薬箱の配布が行われ、診察を終えた多くの人が日常生活や健康管理のことなどを看護師に相談し、アドバイスを受けていました。



桜 あっけし桜・牡蠣まつり と厚岸の味覚を堪能

『第66回あっけし桜・牡蠣まつり』が5月16日から24日までの9日間にわたって開催されました。
期間中、子野日公園には町内をはじめ、道内各地から約2万2,400人が訪れました。今年は昨年より一週間早い桜の開花で、遅咲きの桜を見ながら家族や友人、職場の仲間などで焼き台を囲み、厚岸の味覚を堪能しました。
イベント開催日の17日と24日には、毎年恒例のカキやアサリのつかみ取りなどのイベントが行われました。17日には、公式キャラクター『うみえもん』がお披露目され、会場の人気を集めていました。

き 厚岸町クリーン作戦 きれいな湿原でおもてなし

5月9日、水鳥観察館周辺などで湿原清掃が行われました。この清掃は、平成5年に『厚岸湖・別寒辺牛湿原』がラムサール条約登録湿地となったことを契機にスタートしました。
この日は過去最多の410人が参加し、水鳥観察館と住の江側から出発する2班に分かれて清掃作業を行い、JR花咲線沿線や別寒辺牛川添いを歩きながらごみを収集しました。
また、10日には町内の自治会ごとに、公園や道路、集会施設周辺などの一斉清掃を行いました。



日 少年の主張大会 ごろの考えを発表しました

5月23日、真龍小学校で『少年の主張大会』が行われ、町内の中学校4校から参加した6人が、日ごろから考えている思いや意見を発表しました。
審査の結果、『殺処分されていくペット達』と題して、ペットが飼い主の都合で捨てられている現状があり、命の大切さと責任をもってペットと暮らしてほしいと発表した、真龍中学校3年の島山二優加さんが最優秀賞に輝き、7月29日に開催される釧路総合振興局地区大会に出場します。